

年間目標	1 古典分野の文章を扱う中で、国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高める。 2 思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにする。 3 言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。		教科書・副教材等	
	1 教科書 「国語総合 古典編」東京書籍 2 その他 古典文法・漢文句法 国語便覧・文学史 古語辞典・漢和辞典			
期	月	学習内容（予定時数） ◎印=古典文法・句法	学習目標（短期目標）	学習のポイント・観点別評価
1 学 期	4	古文ガイダンス (1) 古文編 検非違使忠明 (3) 絵仏師良秀 (3) 大江山の歌 (2)	・古文に関心を寄せる。 ・繰り返し読んで、古文特有の言葉や表現に親しむ。 ・本文に即してあらすじを理解する。	・予習の仕方、ノートの取り方、辞書の活用法、音読の習慣が身に付いたか。 ・文語と口語との違いがつかめたか。 ・内容のまとまりを押さえて、的確に音読できたか。 ・歴史的仮名遣いを正しく理解できたか。 【関心・意欲・態度】
	5	◎ 歴史的仮名遣い ◎ 動詞の活用 漢文ガイダンス (1) 漢文編 訓読 (3) 格言 (4)	・漢文に関心を寄せる。 ・短い文を読んで訓点を理解し、正しく音読する。 ・再読文字を理解する。 ・助字（特に置き字）を理解する。	・予習の仕方、ノートの取り方、辞書の活用法、音読の習慣が身に付いたか。 ・送り仮名や返り点のきまりを理解し、正しく音読することができたか。 ・再読文字、助字（特に置き字）を理解して、正しく書き下し文にできたか。【関心・意欲・態度】 ○ 連休中の課題提出 ○ 1学期中間考査
	6	古文編 随筆 『徒然草』 (8) 丹波に出雲といふ… ある人、弓射る… 九月二十日のころ ◎ 形容詞・形容動詞の活用 漢文編 助長 (3) 断腸 (3) 朝三暮四 (3)	・古文の文体に慣れ、話の展開を理解する。 ・古人の物の見方や生き方に触れ、古文を読む楽しさを知る。	・それぞれの話の展開とおもしろさが理解できたか。 ・用言の活用が正確に理解できたか。【読む能力】 ○ 授業ノート提出
	7	漢文編 唐詩 (5) 春晓 送元二使安西 静夜思 春望 ◎ 漢詩のきまり (1学期末考査後) ◎ 動詞・形容詞・形容動詞の復習	・訓読に慣れる。 ・漢詩の形式や語法を知る。 ・詩に表れた唐代の人々について知り、そのものの感じ方や考え方について発表する。	・故事成語に関心を持って読み、それぞれの話のおもしろさがわかったか。 ・訓読の基本を理解し、正確に音読できたか。【読む能力】 ・漢字の読み、訓読のきまりに注意して適切に音読できたか。 ・表現上の工夫に即して、各詩に込められた主題や心情を味わうことができたか。 ・詩の形式や押韻等について理解できたか。 ・詩人について適切に調べて発表できたか。【知識・理解】【話す・聞く能力】 ○ 授業ノート提出 ○ 課題提出 ○ 1学期末考査
夏休み		◎ 助動詞の学習と演習 ◎ 発展的読書	・古文の助動詞を体系的に学習する。 ・古典に関する発展的読書を行う。	・助動詞の活用の仕方や用法が理解できたか。 ・古典に関する発展的読書を行ったか。

期	月	学習内容 (予定時数) ◎印＝古典文法・句法	学習目標 (短期目標)	学習のポイント・観点別評価
2 学 期	8 9	古文編 『竹取物語』 (6) 天の羽衣 富士の山 漢文編 史伝 管鮑之交 (4) 鶏口牛後 (4) ◎ 使役・受身 古文編 和歌 (4) 万葉集 古今和歌集 新古今和歌集 ◎ 和歌の修辭法	・筆者の人間観や自然観、美意識などを読み取る。 ・訓読に慣れる。 ・ストーリーの展開を把握し、登場人物の生き方について意見を書く。 ・韻律に注意して適切に音読する。 ・和歌の表現技法を確認する。 ・歌人たちについて調べ、そのものの見方や感じ方を知り、発表する。	○ 課題テスト ・筆者のものの考え方を理解できたか。 ・自分自身の考え方を深め、視野を広げることができたか。 【読む能力】 ・漢字の読み、訓読のきまりに注意して適切に音読できたか。 ・登場人物の生き方を理解し、自分の意見を書くことができたか。 【書く能力】 ・句切れや七五調に注意して音読できたか。 ・和歌の表現に即して、心情が読み取れたか。 ・修辭法が理解できたか。 ・歌人たちについて適切に調べ発表できたか。 【知識・理解】 【聞く・話す能力】 ○ 授業ノート提出 ○ 課題提出 ○ 2学期中間考査
	11	古文編 『伊勢物語』 芥川 (3) 東下り (4) 筒井筒 (4) ◎ 主要な助詞 漢文編 文章 雑説 (4) 罷説 (4) ◎ 限定・抑揚・願望	・登場人物の心情と行動を正しく読み取る。 ・歌物語の特色を知る。 ・ストーリーを踏まえ創作活動を行う。 ・訓読に慣れる。 ・日本人の考え方に影響を与えた古代中国の思想について知る。	・王朝時代の人々の生き方を鑑賞することができたか。 ・重要な古語や助詞・助動詞の意味を理解し、文脈に即して口語訳ができたか。 ・敬語表現の概要を理解できたか。 ・ストーリーを踏まえ想像力を駆使して創作を行えたか。 【書く能力】 ・漢字の読み、訓読のきまりに注意して適切に音読できたか。 ・語句の意味や助字、句形等に注意して文意を理解できたか。 【読む能力】
	12	古文編 『土佐日記』 馬のはなむけ (3) 阿倍仲麻呂 (2) 帰京 (2)	・登場人物の心情と行動を正しく読み取る。 ・日記文学の特徴を知る。 ・古語や文法を正確に理解して口語訳する。 ・日記に表われた心情を理解する。 ・朗読に習熟する。	・重要な古語や助詞・助動詞の用法を理解し、文脈に即して口語訳ができたか。 ・当時の人々にとって「日記」がどのようなものであったかを理解できたか。 ・亡くなった子への思いを考えることができたか。 ・重要な古語や助詞・助動詞の用法を理解し、文脈に即して口語訳ができたか。 【読む能力】 ○ 授業ノート提出 ○ 課題提出 ○ 2学期末考査
	1	漢文編 思想 論語 (6) 孟子 (4) ◎ 仮定・比較・選択 古文編 『平家物語』 木曾の最期 (6)	・歴史的状況や人物たちについて知り読解する。 ・自分の考えを書く。 ・音便に注意して音読する。 ・登場人物の心情の移り変わりを読み味わう。	○ 課題テスト ・歴史的状況や人物たちについて知見を深めたか。 ・温故知新して自分の意見を書けたか。 【知識・理解】 【書く能力】 ・登場人物の心情を的確にとらえることができたか。 ・重要な古語や助動詞の用法を理解し、文脈に即して正確に口語訳ができたか。 ・敬語について理解できたか。 【読む能力】
3 学 期	2	古文編 『奥の細道』 (6) 漂泊の思ひ 平泉 『万葉集』 『古今和歌集』 『新古今和歌集』	・古語や文法を正確に理解して口語訳する。 ・筆者の旅への思いや、旅先での体験や感動を読み味わう。	・俳句・俳文について基本的なことを理解できたか。 ・重要な古語や助動詞の用法を理解し、文脈に即して正確に口語訳ができたか。 【読む能力】 ○ 授業ノート提出 ○ 課題提出 ○ 学年末考査
評価の方法	1 各学期の成績の評価は、定期考査と観点別評価を総合して (提出物、小テストを含む) 行う。 2 観点別評価は、記述の確認・行動の観察などによって行う。 3 「国語総合」の考査は、現代文分野と古典分野 (古文・漢文) とに分けて行うが、学期成績・学年成績は「国語総合」として行う。			

○ 国語総合（古文・漢文）の学習法

1 基本的な心構え

古文は、私たちの祖先が作り出した貴重な文化的遺産であり、当時の人々の考え方・生き方が込められている。また、漢文は、長く日本人の教養の中心として生き続け、我が国の文化の形成に大きな役割を果たしてきた。私たちはそこに、古人が何を求め何を恐れ何を愛し何を信じようとしたかを見ることが出来る。古典学習は、古人に深く学びつつ、温故知新によって、現代に生きる私たちが、いかに生きるか、を問い考えることでもある。

2 学習の方法

(1) 予習について（予習の30分は復習の2時間の効果）

ア 大切な音読

(ア) すらすらと読めるまで、繰り返して読む。

(イ) 読みながらおおまかな意味をつかみ、分からない所をチェックしておく。

イ ノートの作成

<古文>

(ア) 原文をノートの見開きの上のページに3行おきに写す。たっぷりスペースを取る。

(イ) 写した本文の隣に、本文にそって鉛筆で自分の力で口語訳を試みる。本文の左には区切り品詞分解などを書くといよい。

(ウ) 下のページの上三分の一に新出単語・文法事項を調べて記入する。（単語は古語辞典の主な意味をすべて列挙し、本文にあてはまる意味に○印を付けておく。）

(エ) 教科書末の“学習の手引き”を解答しておく。また、国語便覧で作品について調べる。

(オ) 文法的に大事だと思うところ・分からないところを、鉛筆で本文の右側にチェックしておく。

<漢文>

(ア) 見開きの上のページ上半分に、本文を3行おきに写す。（ただし、返り点・送り仮名は書かない。）
（なるべくたっぷりスペースを取る。）

(イ) その隣の行に、本文にそって書き下し文を鉛筆で書く。

(ウ) その隣の行、書き下し文にそって口語訳を書く。

(エ) 下のページ上三分の一に、分からない語句を漢和辞典で調べ、また国語便覧で作品について調べて書く。また、教科書末の“学習の手引き”を解答する。

(オ) 句法や分からない所を、鉛筆で本文の右側にチェックしておく。

(2) 授業について

ア 予習した古文単語・文法的事項・句形・重要語等を確認し、不十分な所を補う。

イ 分からなかった所は特に注意してノートに書く。疑問に思うことは積極的に質問することが大切である。予習と色を変えて赤色で書くとよい。

ウ 板書以外で大切だと思うこともノートに書く。特に文章の中心となる所はしっかりとノートをとること。文法書・辞書・国語便覧等を授業中もどんどん活用する。

(3) 復習について

ア 教科書で**音読**し、口語訳する。行き詰まったらノートで確認する。何度も音読し、暗誦する。

イ 予習での疑問点が解決できたか確認する。要旨・主題・感想等を文章で書いてみるのもよい。

ウ 古文単語・文法的事項・句形・重要語等を記憶する。

(4) その他

ア 平素から読書することは大切である。初学者向けの入門書や、『今昔物語集』・『竹取物語』・『十八史略（対訳付きの本）』や、また古典を翻案した現代作家の作品等を読んでもよい。田辺聖子、大塚ひかり、司馬遼太郎、宮城谷昌光などの著作がある。

イ 定期考査・模擬試験が終わった後、間違った所を訂正し、二度と同じ誤りを繰り返さないようにする。自分の弱い所を自己診断し、また、問題は必ずファイルしておく。